

■ 特集

第2回JBパリ展示商談会

事前販促含め、売り込みに専念

第2回JB（ジョイント・尾州）パリ展示商談会（主催・JBブランド構築事業実行委員会）が9月16日から19日までパリのホテル・ルーヴルで開催されるが、同実行委員会の構成メンバーである（財）一宮地場産業ファッションデザインセンターは、展示会に先立ち各社の出展素材と抱負をアンケート調査した。その結果、今回の展示商談会に出展各社は「わが国ならではの原料、加工技術」を基本にした素材を前面に押し立て、今回の展示商談会での商談成立を期待しつつも、近い将来には「確かな数字に結び付けたい」としている。なお対象は2006年～2007年秋冬婦人服素材で、総出展数は107点。



“日本的素材”を前面に打ち出す

パリでのJB展示会は今年3月のルーヴル美術館展について今回が2回目。初回はJBブランドの国際立ち上げということで、商談は二の次だったが、今回は商談を前面にしておき、9月上旬から指定エージェントがイタリア、フランスの有力アパレルへの事前売り込みと展示商談会アピールを行った。



それだけに出展各社の意気込みは旺盛で「当社のテキスタイルを欧州から世界に販売して

（3月JBパリ展）

いきたい」、「当社の

整理技術とその織物が欧州でどのような評価を受けるか見届けたい」など盛んだ。この背景には「国内での販路が狭くなり、厳しい市況の中、今後中国を含めた海外市場の構築が急務」という事情があり、「海外市場への参入を望んでおり、早く商品の反響を知りたい」という思いがある。それにより「今後の展開を検討して」海外戦略を立てたいというわけだ。

出展する素材に関しては「感性面（デザイン、色柄）においては欧州にリードされてい

るので尾州産地としてはハイテク系原料とわが国固有の原料使い、加工・色彩を取り入れた“超複合素材”で勝負という方向は一般的だ。

環境素材やロービング、ウールガーゼも

まず基本コンセプトは「日本的な伝統の意匠、技法」と「日本の先端技術」を基本にしており、

例えば「100年前の風合いの再現」、「100年前の柄を現在のハイテク加工で仕上げ」といった“超伝統技”や各種のハイテク差別化加工がひとつの柱になっている。

具体的に原料、系使いでは

麻（リネン）の起毛素材

バンブー・コットン・シルク混ツイル

バンブーモール

アルパカ薄起毛

ロービング

白松素材

などが代表的で

ある。また製織・

後加工では



100年前の風合いを再現した素材
ウールをコットン調に仕上げ素材
ウールのピロード
ローピングワッシャー
ウールガーゼ、クレープ
ドビー使い
ウールツイード
などが出品される。

中には「アンゴラの光沢、ソフトさをそのままにして、軽さと薄さをプラスした」、「か

さ高、光沢、ソフトの特徴を持ち合わせたローピング織物」、「ドビー使いによるふわふわ、もこもこ素材」、「リファイン圧縮梳毛チェック」、「ベビーアルパカアストラカンループツイード」など凝った素材もある。さらに竹や白松を原料とした「地球と身体に優しい素材」というエコロジー織物もあるが、各社が競合しないよう得手素材に絞っているのが、大きな特徴だ。

《第2回」Bパリ展示商談会の主な出展商品》

(社名)	(主な出展素材)
小池毛織	100年前の風合いを再現したループルシリーズ ウールをコットンライクに仕上げたブリリアンシリーズ ウールピロード
みづほ 興業	アーバン加工 リファイン加工 オパール加工
石慶毛織	麻(リネン起毛) 表・ハリス、裏・リバーシブル ウールニット系使いパネルリファイン加工
田中テキ スタイル	地球と身体に優しい松テキスタイル ウール・リネン混紡系使い ドビー使いによるふわふわ、もこもこ素材
野村産業	バンブー・コットン・シルク混ツイル バンブーモール、カラミ織り アルパカ薄起毛
日本 エース	ローピングワッシャー ウール・レーヨンサッカー ウールガーゼ
長大	アンゴラの光沢、ソフトさをそのままに、軽さと薄さをプラスした素材 かさ高、光沢、ソフトの3つの特徴を持ち合わせたローピング織物 糸の持つ自然な光沢感を起毛などの仕上げで最大限引き出したシルク素材
森織物	アストラカンベビーアルパカループツイード リファイン圧縮梳毛チェック ダブルフェイス(表ウール紡毛。裏綿)
昭和毛織	サントスシルク ツイードコール ダブルクレープ
三星毛糸	ヘリンボンパターンボーダー ベガスムースグリッタープリント ハンドレース刺繍
艶金興業	彩墨プリント(和柄とウールを後加工で一体化し、繊細な表面に仕上げ) 手袖シルクツイード(手袖独特のスラブと高級感のあるツイード) オールドコレクション(100年前のオールドブックより柄を再現し、現在のハイテク加工で仕上げ)

第2回 JB パリ展示商談会に望む出展各社の抱負と輸出戦略

(社名)	(抱 負)	(輸 出 戦 略)
小池毛織	当社のテキスタイルを欧州から世界に販売していきたい。	フランス、イタリアの有名ブランドから売り込み、その後世界中に発信していく。
みづほ興業	当社の整理加工技術とその織物が欧州でどのような評価を受けるか、試してみたい。	力のあるブランド、メゾンと加工技術を基本とした商品づくりを共同で進めたい。
石慶毛織	中国を含めた海外市場構築が急務。商品の反応を確かめ、今後の展開を検討したい。	海外にないハイテク系原料とわが国固有の原料や加工、色彩を取り入れた超複合素材を的確なルートで販売したい。
田中テキスタイル	欧州に負けない素材の提案で、将来的に数字に結び付けたい。	国内での受注減をカバーするためにも、得手素材でグローバル展開したい。
野村産業	バルクの商談ができることを期待している。	
日本エース	欧州市場と国内の市場との違いを把握し、今後の商品企画に反映させる。	基本的には国内の売れ筋を海外で展開する。
長大	どのような素材に興味を示すか確認したい。	海外にはない当社オリジナルな商品を、著名デザイナーブランドに販売していきたい。
森織物	ファッションの本場で自社生地の評価を確かめる。	パリ展でのピックアップ状況を見て判断
昭和毛織	ビジネスのための展示会として期待。	海外に強いコネクションをもつ商社と連携。特化した商品開発。
三星毛糸	欧州市場への販売の手掛かりに	欧州に受け入れられる商品開発
艶金興業	日本らしさを PR し、評価を得たい。	当社独自の加工技術を生かして、拡大していく。



J B パリ出展商品

